総合的な学習の時間

「伝えよう！雪の学習プレゼンテーション」

H28年1月29日(金)6校時　ｸﾞﾘｰﾝﾎｰﾙ

6年2組：教諭　藤井　達也

1.雪の学習を成立させる教材化

１．札幌市の雪対策と現状

北海道の四季折々の景色は人々を魅了し、日本だけにとどまらず、世界各地からも観光客を呼び寄せている。日本国内においても、「住みたい街ランキング」（SBI ライフリビング株式会社）で常に上位に位置している街がここ札幌である。そのような魅力的な街である一方で、年間６ｍも累積積雪がありながら、１９０万人の市民を抱えているのは、世界規模で見てもここ札幌だけなのである。そのため、札幌市は世界でも先進的な除雪システムをつくりあげ、１９０万人の冬の安心・安全な暮らしを支えている。札幌市の雪対策は、平成３年の「雪さっぽろ２１計画」から始まり、現在は平成２１年１１月に策定された「札幌市冬のみちづくりプラン」のもとで行われている。しかしその現状は、市民の路上駐車や雪出し問題、ダンプトラックの減少や、雪堆積場の不足や長距離化、作業員の減少や予算の問題など様々な課題を抱えている。市では、冬の市民生活ルールの確立、排雪量の抑制、除排雪体制の確立、メリハリをつけた冬期道路の管理などを重点としながら、今後の雪対策の未来を見据えているところである。しかしながら、市民の理解・協力はなかなか得られず、札幌市に住んでいる住民の、市政に対する要望は、３７年間トップで「除雪に関すること」である。

２．児童と地域の実態

児童の除雪に関わる意識を調査したところ、マンションなどの集合住宅に住んでいる児童、一軒家に住んでいる児童ともに自らの除雪経験は少なく、誰かがやってくれるだろうという意識も少なくない。地域の特徴としては、歩道が狭く、冬期間は、車道の確保により歩道がなくなる通りがあることや、通称「四番通り」「六番通り」には流雪溝が配備されていることなどがあげられる。

３．教材化

本単元では、冬の通学路（校区）に着目し、６年間通い慣れた通学路(校区)の危険を調べていく

時数	児童の活動	
1	年間６ｍも雪が降るのは世界でも札幌だけ。 ○札幌市の除雪システムを振り返ろう。 ■札幌市は世界一の除雪システムで市民の生活を守っている。 →新琴似に住んでいる市民も市の除雪については満足しているのかな？親や地域の人にインタビューしよう。	つかむ
2	○インタビューしてきたことを交流しよう。 ■あまり除雪について満足していないようだ。 →市に寄せられる苦情件数第一位は「除雪」。	
3-6	新琴似地区の雪対策はどのようになっているのだろう？ ○家の周りや通学路の冬の危険を調査しよう。 ・iPad の活用。 ・校区や近所の危険（見通し、歩道の確保、すべる）を調べる。 ・映像や写真を撮る。 ■意外と身近に危険はたくさんあったね。	調べる
7（本時）	○校区の特徴を交流しよう。 中道はシールがたくさん 路上駐車している車もたくさんあった シールが少ない通りもある ・公助の視点から自助の視点へと転換させていく。 ■校区の実態がみえてきた。自分たちにも協力できる	深める
8-17	○安全・安心な新琴似地区にするために、私達からも市民へ、除雪の在り方について発信していこう。 ・プレゼンテーションソフトの活用。 ・保護者に向けた発表会。 ・「おはなし発表会」への出場、市民への発信。	伝える

子ども達には一人ひとりが責任を持って調べ学習を行っていくことを意識させ取り組ませた。そういった形態をとることで、他の人が調べてくれるから自分は調べなくてもいいんだという考えの子を生ませないように配慮した。また、自分しか調べていないことをグループに発表することは、責任があると同時に自分はこの班に必要な存在なのだという他者受容感を育成させるためにも非常に効果的なものであると捉え、あえてジグソー法を取り入れた。

沖縄の人々のくらしについて調べていくなかで、子ども達は子ども達から出た「自然・環境」「住まい」「農業」「漁業」「歴史・文化」の視点で調べ活動を行った。しかし、この段階では事実認識で留まっており、そのため本時では沖縄の人々が環境を活かした工夫で生活していることに気付かせたいと考えた。沖縄では、暖かい気候にもかかわらず、なぜビニルハウスでゴーヤを育てていくのかという問題意識を生ませていく。ビニルハウスはそもそも室内の温度

を上げるために設置するものであり、気温が暖かい沖縄では必要がないのではないかという疑問が生じる。そこで、ビニルハウスでゴーヤを育てる理由が何かあるはずだということを、これまでの学習を活かして考察していく。沖縄では気候の特色を活かして農業を行っているということを理解していくのである。

　このような学習を通して、ただ単に個別的知識の定着だけをしていけばいいのではなく、一般的知識を駆使していく技能を高めていくことが、社会科の目標である公民的資質を育成していくことにつながると考えた。

既習の知識を踏まえながら、自分たちにも協力できることがないかを考えさせていき、「やってもらう除雪」から「協力する除雪」へと思考の転換を図りたいと考える。

　さらに冬道の安心・安全を自分事としてとらえさせていく中で、学びを生活に生かしたり、家族や地域に発信したりしていく活動を取り入れて

２.単元の目標

○　地域の除雪の問題について関心をもち、意欲的に調べている。

【関心・意欲・態度】

○　地域の除雪の問題について自分なりの考えをもち、ノートに記述したり、人に伝えたりすることができる。

【思考・判断・表現】

○　地域の除雪の問題について調査をしたり、インターネットや写真、地図などを活用したりして、必要な情報を集め、読み取っている。

【技能】

○　基本的な除雪の仕組みや課題について理解している。

【知識・理解】

３．単元構成（１７時間）

4．本時について　（7／17）

（1）目　標

・校区の除雪に関する問題点について、調べたことから多面的に考えていく中で、「やってもらう除雪」から「協力する除雪」へ転換し、今後の雪対策について自分なりの考えをもつことができる。

（2）展　開

主な学習活動	教師の指導と評価・解説
前時までに、調べてきた通学路や家の周りの危険などについて、グループでまとめている ■グループで作製した透明シートを重ねていく ⇒校区全体のマップが完成 校区の実態を交流しよう 狭い道がたくさんある 中道には雪が多そうだ シールがない通りもある 同じところにシールが固まっている 問題点が見え どうしたら暮らしやすくなるだろう？ 公助 ・大きな通りから順番に除雪しているよ ・除雪には優先順位があるんだった ・流雪溝をつくって対策しているよ 時間的、予算的に限界。 除雪にも優先順位が!! 市民として・・・ 協力できることはないかな 自助 ・中道や家の前は自分たちでやろう ・砂まきぐらいなら・・・ ・迷惑駐車や雪出しはやめた方がいいね ・呼びかけていくことも必要なんじゃないかな ■子どもたちの考えを公助、自助に振り分けていく ■雪対策室の方のお話 校区の特徴が見えたね。私達にも協力できることがありそうだ	観点 ・歩道の確保 ・見通しの悪さ ・すべる ・実物投影機使用 ・特徴的な個所は、近所の子どもたちの話や映像・写真などを踏まえながら話を展開させる。 ・六番通りと生活道路を比較させることで流雪溝の存在に気付かせる。 ・既習を想起させながら、全て流雪溝をつなぐことは時間的、予算的にも困難なことや除雪にも優先順位があることに気づかせる。 ・子どもの思考を、「やってもらう除雪」から「協力する除雪」へ転換させる。

5．本時の板書計画